北小学校の校内支援委員会の取組

～今までの取組と　実際に行っている個別の支援～

大阪狭山市立北小学校

１．はじめに（北小学校の支援教育の概要）

☆特別支援教育正式実施にむけて

2005 年度　・コーディネーターの指名
　　・担当者の研修
　　・校内での学習会の開催「軽度発達障害について」青木道忠先生

2006 年度　・校内委員会の発足
　　・対象児童と面談
　　・「北小たより」で、特別支援教育のスタートのお知らせ
　　・入学説明会で保護者へ特別支援教育スタートのお知らせ
　　・校内での学習会の定例化（山田充先生、今井先生、そのほかの先生方）

2007 年度　・校内委員会定例化（月１回）
　　◎児童の実態把握に努め、「気づき」の視点を持つ。
　　◎障がい特性に配慮した対応について考える。
　　◎二次障がいの防止についての理解を深める。
　　◎年間を通して、特別支援教育についての学習会をおこなう。
　　・支援対象児童への支援開始
　　・個別の指導計画の作成
　　・校内での学習会（月１回）事例研究会、支援教育の実践例、
　　ソーシャルスキルトレーニングなど

2008 年度　・校内委員会を中心にした実施計画の具体化
　　・支援対象児童への支援、通常の学級での支援
　　・個別での支援、通級指導教室(東小学校)への通級、ぽっぽ園での療育など
　　・個別の指導計画に基づいた授業の実施・学習会（年３回）

☆北小の支援教育にかかわる対象児童…平成 24 年度（平成 25 年度）

支援学級・・・・・・・・・・・・・自閉症情緒障がい学級３名（４名）
　　・・・・・肢体不自由児学級２名（２名）
通常の学級に在籍する児童・・・・個別の支援児童４名（４名）
　　・・授業外支援児童１０名（７名）
通級指導教室に通う児童(東小)・・４名（４名）
個別の指導計画作成児童・・・・・３名（４名）

（注）**＜個別の指導計画と個別の教育支援計画について＞**（文部科学省ＨＰより）

「個別の指導計画」…指導を行うためのきめ細かい計画

幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法を盛り込んだ指導計画。例えば、単元や学期、学年等ごとに作成され、それに基づいた指導が行われる。

「個別の教育支援計画」…他機関との連携を図るための長期的な視点に立った計画

一人一人の障害のある子どもについて、乳幼児期から学校卒業後までの一貫した長期的な計画を学校が中心となって作成。作成に当たっては関係機関との連携が必要。また保護者の参画や意見等を聴くことなどが求められる。

☆通級指導教室未設置、専任の支援担当者なしの中での通常の学級に在籍する児童の支援体制

（教科の持ち時数約 18 時間にプラス通常学級での支援、給食準備時間や休憩時間を活用した指導、児童の実態と時間帯に合わせて支援学級担任が支援する場合も）

担任外（主な担当）	担当教科及び学年
算数少人数	算数３,４年少人数　　**支援教育**
家庭科	家庭科　　５年算数 TT　５年書写　　**支援教育**
音楽	音楽３・４・５・６年　４年書写・読書　**支援教育**

２．校内支援委員会の実践報告

☆校内支援委員会　月１回定例

構成メンバー・・・管理職、養護教諭、支援学級担任、コーディネーター、通常の学級担任、学年団から一人

内容・・・他校へ通級指導を受けている子どものようすの報告、校内で支援を受けている子どものようすの報告（支援学級・抜き出して通級的な指導・授業時間外の指導）

・支援の方法についての話し合い・校内での学習会の内容についての話し合い

☆支援委員会主催の学習会　・年２～３回

・講師を招いて事例研・支援教育についての学習会

・学年の気になる子どもについての支援方法の交流、見直し

☆年３回の学習会（２４年度）

春⇒　クラスの気になる子どもについての情報交流の後、一人について文科省のチェックリストをつけ、支援方法を具体的に学年で考えた。

夏⇒　巡回指導で来てくださっている近隣の小学校の先生に「個別の指導計画」の書き方について講義を受けた。

秋⇒　２人の子どものアセスメントからの具体的支援について考えた。（講師　米田和子先生）

☆コーディネーターの役割について

・校内支援委員会の呼びかけ　・クラスの気になる子どもの相談⇒外部機関に連絡、連携
・保護者との面談　・市のリーディングチームや他校のコーディネーターとの交流
・クラスでの取組の協力　・個別の支援

☆外部機関とのかかわりについて

リーディングチーム・・・近隣の小学校から（月１回）　相談、指導
アセスメント・・・相談、検査、面談
米田和子さん・小野次郎さん（和歌山大学）・小田浩伸さん（大谷大学）・各種医療機関
スクールカウンセラー訪問（月１回）、子ども家庭センター、家庭児童相談所

３．個別の支援の実践報告

4年男子Ａ（２年後期から指導）

・多動、衝動性が大きく、こだわりもある。
・４月の始業式の日に「お約束会」
・算数の先取り学習をすることで、わからなくていらいらすることを取り除いた。
・集中トレーニングや得意な学習なども行い、自信をつけさせた。

⇒クラスでも落ち着き、通級を卒業

6年女子Ｂ（６年後半から指導）

・学習の定着、理解が難しい。
・ＷＩＳＣをとり、そのアセスメントから、保護者との面談後、１時間指導を始めた。
・語彙力を増やす学習、教科書の言葉の意味の確認、文章問題の読取りの学習を中心に行っている。

⇒中学でも、支援を期待している。

2年女子Ｃ（２年後半から指導）

・学習の定着、理解が難しい。
・ＷＩＳＣをとり、そのアセスメントから、保護者との面談後、１時間の指導を始めた。
・語彙力を増やす学習や、漢字の読み、数の大小などから学習を進めている。

⇒今後も指導を続ける必要がある。

5年男子Ｄ（３年から指導）

・学習（漢字や数）の定着が難しい。
・東小での通級指導では、算数を、本校では国語を中心に取り組んでいる。
・来年は中学への支援学級入級も考えて、本校の支援学級へのお試し入級予定
・３年から４年にかけて、毎日九九プリントを１枚声に出しながら答えを書くことを続けた。

⇒今後も指導を続ける必要がある。

４．校内の支援（すきま時間の利用）の実践報告

①６年　（６人）

・給食の準備時間中の取組
・春に「がんばりのお約束」
・月曜から金曜までの課題設定
・自分だけでもできる課題
・その子に応じた課題
・毎日のがんばりの振り返り

ふり返りカードは一番上の引き出しに。

月～金の課題は引き出しに。

先生がいなくても、ひとりで課題を取り出して取り組めるように。

ふり返りカードにはがんばったことへの評価をするように。

②５年　（４～５人）

・給食の準備時間中の取組
・漢字カルタ、計算など
・既習の復習

③４年　（１～３人）

・２０分休みや昼休みなど
・先取り学習（安心して授業に取り組めるように）

５．おわりに　　結果・考察と課題

北小で支援教育に取り組んでよかったこと

・困っている子、学び方が違う子という視点から子どもをみることができた。
・担任だけで悩むことがないよう、支援委員会で支援方法を話し合うことができた。
・外部機関と連携を取ることから、より適切な支援に結びつくことができた。
・支援教育の次への進路の筋道を付けることができた。

課題①　支援委員会での話が学校全体に広がりにくいので、
全体に広める方法を考えていかなければならない。
⇒職員会議などで、支援委員会での話を伝える機会をもつ。

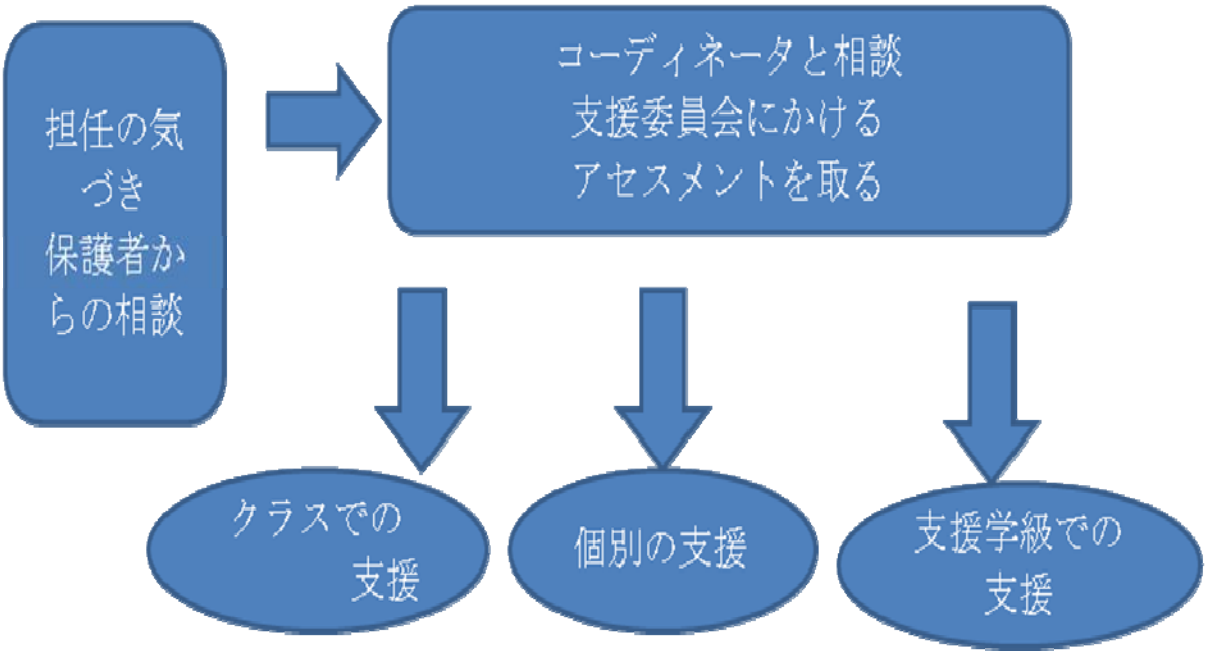
課題②　通級指導教室、専任の支援担当者がないため、
個別の支援が必要な子の支援が十分できない。
⇒できることを、できる時間を見つけ行う。

個別の支援でよかったこと

・自分に合った学習をすることで、「自分もできる」という自信をつけられた。
・教室でも落ち着いて学習することができてきた。
・保護者と一緒に、がんばりの様子や共通の課題について話をすることができた。

課題①　より適切な学習内容の検討が必要。

課題②　すきま時間の支援
・給食準備中や休み時間のため、落ち着いた、静かな空間を保証するのが難しい。
・細切れでの学習支援になってしまう。
・１対１の指導ができにくい。（多くの子に支援の必要があるため）

次年度に向けて

システム化して行っていくために